



平成19年11月2日

各 位

会社名 コムシスホールディングス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 島田 博文
 (コード番号 1721 東証・大証第1部)
 問合せ先 取締役財務部長 三又 善博
 (TEL. 03 - 3448 - 7000)

連結業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成19年5月11日の決算発表時に公表した平成20年3月期中間期及び通期の連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 連結業績予想の修正

(1) 平成20年3月期中間期連結業績予想数値の修正(平成19年4月1日～平成19年9月30日)

(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益	1株当たり 中間純利益
前回発表予想(A)	136,500	6,700	7,700	4,500	31円91銭
今回修正予想(B)	129,800	3,100	4,200	3,100	22円11銭
増減額(B-A)	△6,700	△3,600	△3,500	△1,400	△9円80銭
増減率(%)	△4.9	△53.7	△45.5	△31.1	△30.7
(ご参考) 前中間期(平成19年3月期)実績	143,345	7,810	8,786	6,330	44円59銭

(2) 平成20年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	340,000	19,500	21,500	12,500	88円65銭
今回修正予想(B)	320,000	15,000	17,000	10,500	74円88銭
増減額(B-A)	△20,000	△4,500	△4,500	△2,000	△13円77銭
増減率(%)	△5.9	△23.1	△20.9	△16.0	△15.5
(ご参考) 前期(平成19年3月期)実績	336,518	19,213	21,120	12,382	87円39銭

(3) 連結業績予想修正の理由

理由につきましては次頁に記載させていただきましたのでご参照願います。

※ 上記の予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、実際の業績は、様々な要素によりこれら業績予想と異なる結果となる可能性があります。



平成19年11月2日

～ 代表取締役社長 島田 博文のコメント ～

当期の当初計画は、ドコモ・NTT関連工事が減少するものの、NCC関連工事及びITソリューション事業が前年度に引き続き好調に推移することを考慮して計画いたしました。しかしながら、当中間期の売上高は、NCC関連工事及びITソリューション事業は好調であったものの、上期のドコモ関連工事受注の下期へのずれ込み及びBフレッツ関連工事受注の減少により、当社予想を下回りました。

下期においては、NTT関連工事は回復し、ドコモ関連工事は下期に集中しますが、上期落込みの回復は見込めないと考えています。NCC事業は、下期も好調さを継続しますが、公共投資の減少と競争激化による社会基盤事業の減少により、通期の当初計画を回復させるまでには至らないと考えています。

前年度（平成18年度）は、ナンバーポータビリティ対応のドコモ関連工事が急増したことにより、前中間期及び前通期ともに計画を大幅に増修正するなど、特別な年でありました。この平成18年度を除けば、事業はホールディングス設立以来毎年順調に成長しております。そのため、事業を長期的に成長させるための、中期経営戦略をさらに積極的に推進してまいります。

一方、生産性の向上に関しましては、この事業環境の変化をチャンスととらえ、コムシス式カイゼンを進化させ、親子会社間の役割分担の見直しによるサプライチェーンの高度化など、事業の抜本的構造改革に一層積極的に取り組んでまいります。また、ホールディングスはマーケットの変化に柔軟に対応できる特徴を持っており、その特徴を活かして経営資源の最適配置をし、グループトータルのシナジー効果を一層発揮してまいります。

以 上